

おくすりQ&A インフルエンザ治療薬について

Q. インフルエンザ治療薬について教えてください

A. 現在、保険適用となっている抗インフルエンザウイルス剤は、M2蛋白阻害剤〔A型インフルエンザウイルスだけが持つウイルス複製のための遺伝子放出に関わる酵素を阻害する〕、とノイラミニダーゼ阻害剤〔ウイルスの表面にあるノイラミニダーゼを阻害することでウイルスの増殖を抑える〕に大別できます。

M2蛋白阻害剤にはシンメトレル、ノイラミニダーゼ阻害剤にはタミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタの4種があります。このうちシンメトレルはA型インフルエンザにのみ効果があり、他の薬剤はA型インフルエンザまたはB型インフルエンザに用いられます。

Q. 各薬剤の特徴を教えてください

A. それぞれ以下のような特徴があります。

シンメトレル……現在は、**耐性ウイルスが出現**し、国内ではほとんど使われていません。

タミフル……カプセルと粉があります。**1日2回、5日間服用**。飲み薬なので服用方法は簡単です。

リレンザ……吸入剤。**1回2吸入（2ブリスター）を1日2回、5日間**、専用の吸入器を用いて吸入します。

イナビル……吸入剤。10歳以上は、トータルで8回の吸入を1度に、10歳未満では、トータルで4回の吸入を1度に行います。長時間効果が持続するので、**1度の吸入で治療が完了**します。

ラピアクタ……点滴。15分以上かけて1回、**点滴静注**します。合併症等により重症化するおそれのある人には、**高用量で連日反復投与**でき、**経口・吸入投与が困難な人にも**使用できます。

Q. 現在開発中のインフルエンザ治療薬はありますか

A. **RNAポリメラーゼ阻害剤**〔ウイルス遺伝子を複製するRNAポリメラーゼを阻害する〕という**新たな薬が開発中**です。来年には承認される予定です。アビガンというこの薬の特徴は、服用方法が初回は6錠、2回目以降は2錠を、1日2回、5日間服用することです。また他の薬剤と違い、発症から**投与開始が遅れても、効果が期待できる**といわれています。

執筆薬剤師 加納 公子

わたしの 健康とくすり

第191号



今月の内容

- ・平成23年「わたしの健康とくすり」総目次
- ・インフルエンザの予防について
- ・インフルエンザ治療薬について

ビワ（バラ科）

初夏の果物ですが、花は寒い12月～1月に咲きます。この頃は昆虫は少なく、メジロが受粉を手伝っています。葉は煎じて咳止めにしますが、葉の裏に密に毛が生えていて、そのまま煎じると煎液の中に毛が混ざってのどを刺激し、かえって咳が出ます。ぬれた布でこすって毛を除いてから煎じます。濃く煎じて肌を拭けば、かゆみや炎症を抑える効果があります。

写真・文 指田 豊

2011年12月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹
東京都八王子市館町1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

平成23年「わたしの健康とくすり」総目次

お読みになりたいものがございましたら、お気軽に職員にお申し付けください。
来年もよろしくお願いたします。

	疾患シリーズ	ちょっとお耳を	おくすりQ & A
No.181	東京消防庁救急相談センターについて	豚肉のチカラ！	チャンピックスとはどんな薬？
No.182	医療機関を探すには？	プラセンタの効果について	薬の副作用「横紋筋融解症」とは？
No.183	薬局を探すには？	お子様の美肌をつくる洗い方	減感作療法について
No.184	食肉による食中毒について	呼吸の話	乾癬と薬について
No.185	関節リウマチについて	花粉症はもう終わり？	坐薬の上手な使い方について
No.186	熱中症にならないために	おひさまの効能	新しい抗凝固薬について
No.187	一過性黒内障について	男性に多い頭痛	アルツハイマー型認知症と薬について
No.188	新型インフルエンザの名称変更	紅茶の効能	痛風・高尿酸血症の新薬について
No.189	「ほっとけないぞ！CKD（慢性腎臓病）」について	トウガラシの話	ドライアイの新しい治療薬について
No.190	慢性広範囲疼痛と線維筋痛症について	インフルエンザウイルスについて	プロベトについて
No.191	年間総目次	インフルエンザの予防について	インフルエンザ治療薬について

編集担当 岡田 寛征

ちょっとお耳を……

インフルエンザの予防について

今年もインフルエンザが流行する季節に入りました。厚生労働省は、「今冬のインフルエンザ総合対策」をとりまとめ、インフルエンザ対策を呼びかけています。

インフルエンザの感染経路

インフルエンザが人から人にうつるのは、主に飛沫感染と接触感染によります。

飛沫感染とは、せきをした時に飛び散るインフルエンザウイルスを含む飛沫を他の人が口や鼻から吸い込んでしまうことで、感染することです。

接触感染とは、飛沫がついた場所に触れた手で鼻や口に触ることで、ウイルスに感染することです。
「せきエチケット」、「うがい」は重要

そのため、予防に大切で、欠かせないのが、厚生労働省が発行しているポスターでも強調されている「せきエチケット」と「手洗い」です。

「せきエチケット」とは、他の人へ風邪やインフルエンザをうつさないようにするための予防対策です。「マスクを着用して飛沫を飛ばさない」ことや、「咳をする際は他の人から顔をそむける」などの注意点についてまとめられています（ただし、マスクをすることでウイルスの吸入を完全に防ぐことができるわけではありませんのでご注意ください）。

「手洗い」は、接触感染しないために非常に重要なことで、人ごみから帰って来た後にはしっかりと手を洗うことが勧められています。

それ以外にも、抵抗力をつけるために日頃から健康に気を付けること、かかってもひどくならないように、インフルエンザにかかる前に予防接種を受けておくといったことも重要です。

インフルエンザ等感染症に関する相談窓口

厚生労働省はインフルエンザ等に関する相談窓口を開設しています。もし何かわからないことがあれば、こちらで確認し、不安をなくして、インフルエンザに備えましょう。

- 対応日時／月曜日～金曜日（土日祝日、年末年始除く） 9:00～17:00
- 電話番号／03-5846-2422

更に詳しい情報は、平成23年度 今冬のインフルエンザ総合対策
(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>) でご確認ください。



執筆薬剤師 岡田 寛征